

# 赤十字NEWS

December 2016 Vol.919  
http://www.jrc.or.jp



人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

## 海外たすけあい事業

# マングローブ植林で育む生命と環境

### 平成28年度 環境大臣表彰(国際貢献部門)を受賞



支援者の皆さまからの寄付金により、1997年から継続している「ベトナムにおけるマングローブ植林を通じた災害対策事業」がこのほど、環境省主催の平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰(国際貢献部門)を受賞しました。マングローブ植林は、日本赤十字社がベトナム赤十字社と共同で取り組んでいるもので、この20年間に植林した面積は1万ヘクタール(東京ドーム2226個分)以上。台風、高潮などの被害防止や住民生活の向上に貢献するとともに、2025年までに温室効果ガス1630万トンを吸収することが見込まれるなど温暖化防止への役割も果たしています(関連記事 P4)。

©Yoshi Shimizu

写真は植林を開始して数年後の満潮時のマングローブ林。生い茂った現在の様子は P.4へ

## CONTENTS

### TOPICS

青少年赤十字国際交流事業  
国内外の若者77人が  
「防災」をテーマに意見交換  
名誉副総裁  
三笠宮崇仁親王殿下 ご逝去  
赤十字ボランティア情報誌を配信  
子どもの学習支援をする奉仕団を紹介  
健康豆知識 不眠症

### TOPICS

赤十字シンポジウム2016  
世界で今求められる  
人道支援を議論  
10.21鳥取中部地震  
「こころのケア」など  
被災者支援を展開  
平成28年  
熊本地震災害義援金情報

### SPECIAL

あなたのやさしさを  
「お互いさま」の  
気持ちを世界へ  
12月は  
海外たすけあい

### AREA NEWS

東京・富山・北海道・愛媛  
福岡・山口・茨城  
埼玉・神奈川  
雪上安全法の受講者募集  
常任理事会・  
理事会 開催報告  
プレゼント

### WORLD

ハイチ・ハリケーン被害  
廃虚の中、懸念される  
コレラ感染の拡大  
連載  
人道支援の現場から⑤  
フィリピン中部台風復興支援事業  
吉田 拓



## 今月の 出 会 い



NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」  
主演女優  
芳根 京子さん

### 一人一人の力を集めて大きな力に

戦中～戦後の神戸・大阪を舞台に、社会へ羽ばたく女性たちの元  
気な姿を描いたNHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(月～土 午前  
8:00 総合ほか)のヒロイン・すみれを演じる芳根京子さん。日本  
赤十字社とNHKの「海外たすけあい」のPRスポットで、募金の呼び  
かけに協力いただいています。

「今回、赤十字さんと初めてお付き合いさせていただきましたが、『た  
すけあい』と聞いて、学校で参加した募金活動を思い出しました。一  
人の小さな力を集めて、大きな力にしていくのが募金の役割。それを  
伝えることができればと思っています」と抱負を語りました。

ドラマの中のすみれが生きる日本は、まだ貧しく困難な時代。芳根

さんはおばあさまに話を聞かれたり、資料館を見学されたりして、当  
時の雰囲気や人々の生活について学んだそうです。「人が生きるには、  
人との関わりや温かさが大切。ヒロイン・すみれの周りには、そうし  
た愛や支え合い、助け合いがあふれている。だから、苦労はあっても  
いつも幸せなんですわね」

周囲の愛と支えは芳根さん自身も常に感じていること。「家族や友  
達、スタッフ、そして視聴者の方。そうした皆さんとのつながりがあ  
ればこそ、女優の仕事です。また「たすけあい募金」と同じで、一  
人では難しいことも仲間となら実現できるというのが作品テーマに  
なっています。演じながら私自身も日々そのことを学んでいます」

### PROFILE

1997年、東京都出身。2013年にフジテレビ系ドラマ「ラスト♡シンデレラ」で女優デ  
ビュー。14年、NHK連続テレビ小説「花子とアン」でヒロインの親友の蓮子(仲間由紀恵)の  
娘役を好演。翌15年には、TBS系ドラマ「表参道高校合唱部!」でドラマ初主演を務める。



平成28年度青少年赤十字国際交流事業

国内外の若者77人が参加「防災」をテーマに意見交換・交流

「いろいろな国の仲間との議論が有意義な経験に」 「国の数だけ文化があり、考え方が異なることを学べました」 —アジア・大洋州地域の青少年赤十字（JRC/RCY）メンバーを日本に招いた平成28年度青少年赤十字国際交流事業が10月28日から11月7日まで開かれ、国内外のメンバーが交流を深めました。

国際交流事業は、相互理解 イトゥボウさんは「今回学んだことをベースに、トンガの子どもたちに災害の正しい知識と対処法を伝えたい」。今年21カ国39人の海外メンバーと日本の高校生メンバー38人が参加し、全体テーマの「防災」について自国の事例を紹介したり、日本の取り組みなどについて学びました。

学校の先生を目指しているトンガのポーラ・ロロ・トゥ

一方、日本のメンバーは海外メンバーとの交流そのものが心に刻



グループに分かれ、防災をテーマにディスカッション

まれた様子で、「彼らの積極性に刺激を受けた」「心と心でつながる仲間がたくさんできた」といった感想が。指導者の私立鶴岡東高等学校教諭の古原大樹さんは「グローバルなコミュニケーション能力の学習にこれほど有効な場はない」

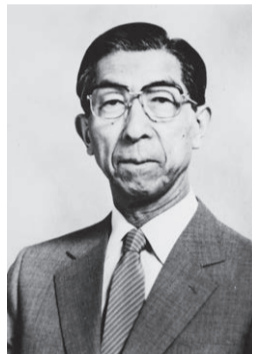
と交流事業の意義を語っています。 ホームステイも体験 東京での国際交流集会上先立ち海外メンバーは、各都道府県支部での研修にも参加しました。北海道に派遣されたモルディブのメンバー2人は、札幌市内のJRCメンバーと交流したほか、災害時の非常食作りや書道などに挑戦。ベトナムのメンバー2人は沖縄県支部で研修し、JRCメンバーとの交流会や学校訪問、ホームステイなどを体験しました。



茶道を初めて体験しました（沖縄）



中学校の家庭科授業でみたらし団子をクッキング（北海道）



日本赤十字社名誉副総裁 三笠宮崇仁親王殿下 ご逝去

斂葬の儀に大塚副社長が参列

日本赤十字社名誉副総裁をつとめる三笠宮崇仁親王殿下が10月27日、東京都中央区の聖路加国際病院でお亡くなりになりました。享年100歳。葬儀（斂葬の儀）は11月4日、東京・文京区の豊島岡墓地で行われました。

昭和天皇の末弟で、天皇陛下の叔父にあたる三笠宮殿下は大正4（1915）年、大正天皇の四男として誕生。昭和10年に三笠宮家を創立されました。

日赤との関係では、昭和11年2月に名誉社員に推戴され、有功章が贈られています。また戦後は、昭和28年に開かれた第1回代議員

会で、秩父宮妃殿下や高松宮殿下がたとともに名誉副総裁に推戴されました。赤十字活動は主に百合子妃殿下に託されましたが、災害救済演習やチャリティー映画会にご臨席されるなど、お二人で63年余りにわたり名誉副総裁として日赤の活動を支えてこられました。

日赤の近衛忠輝社長の夫人・甯子さんは三笠宮殿下の長女。近衛社長は、殿下のご逝去に際し、親族として対応しました。そのため、通夜・斂葬の儀には、日赤から大塚義治副社長が参列しました。

近衛社長は三笠宮殿下との思い出について「子どもの頃、夏に軽井沢に行った時、三笠宮家の別荘が隣にあり、お人柄を感じていました」とお見かけすることもあり、しのばれました。



昭和29年に浜離宮で行われた災害救済演習を視察される（左2人目から）三笠宮殿下、同妃殿下、島津忠承社長、高松宮妃殿下、秩父宮妃殿下（昭和29年5月26日）

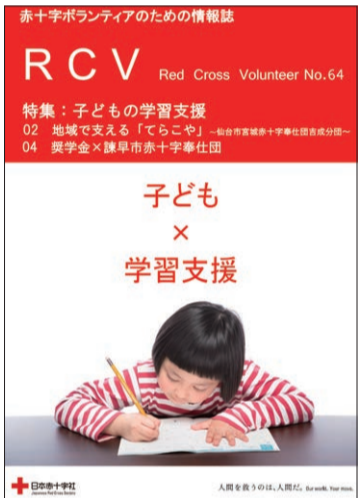
赤十字ボランティア情報誌「RCV」第64号を配信 子どもの学習支援をする奉仕団を紹介

全国の赤十字ボランティアをつなぐ情報誌「RCV（レッドクロスボランティア）」第64号が12月1日に発行されました。同号からPDFデータ配信にリニューアル。明治学院大学のユーザー2人が編集

委員に就任し、赤十字ボランティアによる地域に根ざしたホッと活動について取材し、紙面を作成しました。

第64号のテーマは「子どもの学習支援」。小学校低学年の児童を対象にした学習支援事業「てらこや」に取り組み仙台市宮城赤十字奉仕団吉成分団と、高校生を対象にした奨学金給付で50年間に230人以上の高校進学を支援してき

ます。 編集委員の渡辺真帆さんは「支援する方々の思いを聞き、多くの方の協力が学習支援につながることを知ると同時に、社会が直面する課題に対して、自分たちができる支援を続ける人の姿に深く考えさせられました」と感想を寄せています。



来春発行の第65号の特集は「独居高齢者に対するボランティア活動」の予定。日赤ウェブサイトでダウンロードいただけます

「子ども × 学習支援」

知って良かった！ 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識

③0 眠れない原因を取り除くことが大切です

名古屋第一赤十字病院 心療相談センター長 太田龍朗



不眠症には三つの症状があります。一つは、入眠障害。30分以上寝つけない状態を指します。二つ目は中途覚醒。そして三つ目が熟眠感の欠乏です。ただし、たまに寝つけなかったり、途中で目が覚めるのは誰にでもあること。医学的には、こうした状態が週3日以上、1カ月以上続くことを不眠症と呼んでいます。 睡眠は日中の活動で疲れた体と脳を修復する役割を担っていますが、不眠症ではこの機能回復が十分に働きません。その結果、脳への影響として思考力や集中力が低下します。不眠が長期に及ぶと、うつ状態に陥ることも少なくありません。もちろん体への影響も深刻です。免疫力の低下により感染症にかかりやすくなるほか、生活習

慣病やがんとの関連も指摘されています。 不眠を招く原因は、①ストレスなどの心理的影響、②痛みや痒みといった身体的影響、③薬などによる薬理的影響、④精神疾患、⑤騒音などの環境—の五つに分類されています。ですから不眠対策の第一は、これらの原因を取り除く事。例えば、コーヒーなどの刺激物は夕方以降取らない、アルコールは体内で分解される際に覚醒作用があるので控えめに、熱いお風呂も興奮作用があるのでぬるめのお湯に入るようにします。 一方、不眠症の中には「精神生理性不眠」と呼ばれるものがあります。一度不眠を経験したことで眠れないことを過剰に捉え、その不安から不眠になってしまう症状で、

不眠を訴える方の多くがこの精神生理性不眠です。しかし、精神生理性不眠は命に関わるものではありませんし、逆にどう頑張っても眠れないようにしても、人間は72時間以上連続で起きていられないことが実証されています。つまりいつかは眠れるということ。そうした情報を伝えて眠れない不安を取り除くことで、ほとんどの方の精神生理性不眠が改善されています。 眠れない状態が続くと、安易に睡眠薬を希望される方も少なくありませんが、睡眠薬には依存性のあるものが多いので、薬のやめ時を医師と相談しておくことが大切です。また最近は処方箋のいらない睡眠改善薬も市販されていますが、こちらも長期の服用は避けてください。



寝付きを良くするためには、夕食後の散歩や就寝前の軽い運動も有効です

名古屋第一赤十字病院 〒453-8511 愛知県 名古屋市中村区道下町 3-35 TEL 052-481-5111 (代表)



### 赤十字 シンポジウム 2016

## 世界で今求められる人道支援を議論 「人情から人道へ 普遍的価値観を広げよう」

紛争や難民問題など人道危機に対する支援のあり方を考える「赤十字シンポジウム2016」が11月12日、都内で開かれました。「NHK海外たすけあい」(12月1日(25日)の関連イベントとして日本赤十字社とNHKが共催しているもので今年が30回目。第1回でコーディネーターを務めた宮崎緑さん(千葉商科大学国際教養学部学部長)が今回も進行

役を務めました。緊急救援から開発協力に

議論は、緊急救援と開発協力をどう結びつけるのかなどがテーマに。国際協力機構(JICA)で理事長を務めていた東京大学の田中明彦教授は「難民キャンプでの感染症拡大など、紛争や災害と感染症、貧困は相互に関連し、困難を生み出している」と指摘。人道、開発、和平を一貫のものとして進めていく必要性を訴えました。日赤の近衛忠輝社長は、西アフリカで昨年感染が広がったエボラ出血熱への対応で、感染拡大阻止のための遺体隔離が住民の強い反発を招いたことを報告。「現地養成のボランティアが地域を回り、理解を広げていったが、根本的な問題解決には衛生問題や教育問題への取り組みが不可欠」と開発協力を重視する考えを強調しました。

会場にはシリア難民キャンプの様子をバーチャル・リアリティ(VR)体験するコーナーも。シンポジウムの模様は、12月3日(土)午後2時からNHK Eテレで放送予定



会場にはシリア難民キャンプの様子をバーチャル・リアリティ(VR)体験するコーナーも。シンポジウムの模様は、12月3日(土)午後2時からNHK Eテレで放送予定

「事実を知ることが力に」

また、人道支援への理解を広げていく方策について

近衛社長は、災害支援に比べて紛争犠牲者支援への寄付が極めて少ない事実を指摘。「親近感のわく人なら助けたい」というのは人情だが、これを「どんな人でも助

### Instagramにハートマークを投稿 写真で広げよう たすけあいの輪！

ハートマークをイメージした写真とメッセージを通じて、たすけあいの輪を広げていくキャンペーン「#TasukeaiAction～あなたの写真で世界をつなぐ～」を12月25日まで開催中です。

参加方法は、インターネットの写真共有サービスInstagramに「#TasukeaiAction」や「#海外たすけあい」を付けて写真とメッセージを投稿するだけ。キャンペーン期間中に集まった写真で、一枚のコラージュを作成し、海外のキャンペーン参加者に日本からの思いを届けます。

家族や友達と一緒に、もちろん一人でもOK！アイデアあふれるハートマークを撮って、世界とつながってみませんか。詳しくは海外たすけあいのInstagramのページ ([https://www.instagram.com/kaigai\\_tasukeai/](https://www.instagram.com/kaigai_tasukeai/)) をご覧ください。



昨年Instagramに集まった写真

ける」という人道に変えていきました。

提起しました。

紛争地での取材経験を持つフォトジャーナリストの

安田菜津紀さんは「写真を

通じて、心の種をまくのが

私の仕事。心に種があれば

いつか行動の花が咲くはず」と伝えることの意義につ

代への期待を述べました。

明治学院大学で赤十字と

連携した講座を持つ森田正

隆教授は、講座をきっかけに

ボランティアや献血に参加

した学生がいたことを紹介

した。事実を知ることを感じた

「痛み」を、行動に転換する

### 平成28年熊本地震災害

2017年3月31日(金)まで、**義援金の受付を行っています。**

引き続き、皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。

### 義援金の協力方法

【郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)】

口座記号番号

00130-4-265072

口座加入者名

日赤平成28年熊本地震災害義援金

※ゆうちょ銀行・郵便局の窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます

※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券は、受領証の代わりとなり、「免税証明書」として寄附金控除申請の際にご利用いただけます

※その他、銀行振り込みおよび各都道府県支部でも受け付けています。詳しくは下記ホームページをご覧ください

### 義援金の受付・送金状況

【受付】 272億9,463万9,504円 (2016年11月22日集計確認分)

【送金】 269億9,389万5,687円 (2016年11月25日現在)

※日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、手数料などはいただくことなく全額が被災地に設置された義援金配分委員会を通じて、被災者に届けられております

※関連事務費については、活動資金(日赤を支援くださる方々からの会費や寄付金)により対応しております

日本赤十字社ウェブサイト (<http://www.jrc.or.jp>)

### 10・21鳥取中部地震

## 「こころのケア」など被災者支援を展開

最大震度6弱を観測した10月21日の鳥取中部地震により、県内では重軽傷者23人、129棟の全半壊を含め1万棟以上の住宅が損壊するなど大きな被害が発生しました(11月25日現在)。避難所も2市5町に最大で66カ所が設置され、約3000人が避難生活を送りました。

日本赤十字社鳥取県支部では、発災直後に災害対策本部を設置し、被害状況などの確認に先遣隊を派遣したほか、鳥取赤十字病院からはDMAT(災害派遣医療チーム)が出動。翌朝には救護班1班も派遣され、被災者支援を行いました。

また各地の赤十字奉仕団や防災ボランティア・リーダーが、避難所での炊き出し、傾聴(被災者の話に耳を傾ける活動)活動、救済物資の積み込みなど幅広い被災者支援を行いました。

れ、避難所アセスメント等を行いました。

これらの調査結果に基づき、支部では避難生活を送る被災者への支援として、毛布980枚、緊急セット120セット、安眠セット231セットを配布。こころのケア班を計6班派遣し、こころのケア活動にも取り組みました(11月7日まで)。

また各地の赤十字奉仕団や防災ボランティア・リーダーが、避難所での炊き出し、傾聴(被災者の話に耳を傾ける活動)活動、救済物資の積み込みなど幅広い被災者支援を行いました。



### 2017年3月31日(金)までに延長しました

義援金名称 平成28年鳥取県中部地震災害義援金 受付期間 平成29年3月31日まで

郵便振替(ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00180-8-514217 / 口座加入者名 日赤平成28年鳥取県中部地震災害義援金

※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます

※窓口でお渡しする半券(受領証)は、寄付金控除申請の際に必要となります

※銀行振り込み、被災地の鳥取県支部の口座でも受け付けております

※お寄せいただいた義援金は、手数料などをいただくことなく、全額を被災された方々へお届けします

詳しくは日本赤十字社のウェブサイト(<http://www.jrc.or.jp>)をご覧ください

### 広告

社会福祉法人黎明会 (公社)全国有料老人ホーム協会正会員

介護付有料老人ホーム

## 熱海 ゆとりあ の郷

雄大な眺望と温暖な風土のもと、心豊かに暮らす...

「熱海ゆとりあの郷」には、ほんものの豊かさ、心の安らぎがあります

### 特別見学会の日程

12月 8日(木)、14日(水)  
1月 18日(水)、27日(金)

### 熱海ゆとりあの郷に住まう魅力

歴史ある社会福祉法人が経営母体 温暖な気候 必見の眺望 24時間365日 医師・看護師が常駐 自慢の温泉 暮らしの多様なサービス 安心の「終のすみか」

### 熱海ゆとりあの郷「東京入居相談室」

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル東館2階

検索 熱海 ゆとりあ ホームページ <http://www.yutoria.net>

見学の申込みや問い合わせは、下記フリーダイヤルまで。

フリーダイヤル

0120-058-211 受付時間/9時~17時 月曜~金曜

●所在地 / 〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1丁目24番1号 TEL.0557-81-2322 / FAX.0557-82-5260

●交通 / 新幹線・東海道本線熱海駅下車 熱海駅から専用マイクロバス運行(約15分) ●類型 / 介護付有料老人ホーム(一般型 特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態 / 利用権方式 ●利用料の支払い方式 / 一時金方式 ●入居時の要件 / 入居時 自立 ●介護保険 / 静岡県指定介護保険特定施設(一般型特定施設) ●介護予防特定施設 ●介護居室区分 / 全室個室 ●一般 型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制 / 2.5:1 以上



# あなたのやさしさを 「お互いさま」の 気持ちを世界へ — 海外たすけあい (12月1~25日)



ある日突然、街が砲撃され、自宅を追われることになったら——  
再び東日本大震災のような巨大災害に襲われたら——  
病気になっても医者にかかれず、薬ももらえなかったら——

そんな「もしも……」は決して絵空事ではありません。今この瞬間も世界では、紛争や災害、貧困・病気などにより、1億3000万人の命が危険にさらされています。こうした人々へ支援を届けるため、日本赤十字社とNHKが共同で取り組む募金キャンペーンが「NHK海外たすけあい」(12月1~25日)です。世界は支え合いで成り立っています。世界の人の苦しみを「自分ゴト」に、その想像力に優しさを添えた、温かなご支援をお待ちしています。



配給された給食(ポリッジ:大豆とトウモロコシのお粥)を食べるマラウイの子どもたち

© Ichigo Sugawara

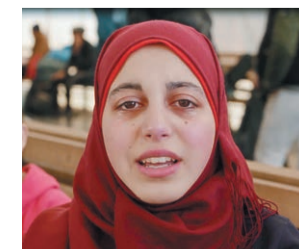
## 紛争で苦しむ人々への支援

### 生きるために、お母さんと妹の手を握って必死で逃げました

シリア難民 リンさん (16歳)

自分にこんなことが起こるなんて思ってもいませんでした。自分の国から逃げなくちゃいけないなんて……。すぐつらかったけれど、生きるためにお母さんと妹の手を握って必死で逃げました。でも、海に出たらとても怖くて…。目の前でボートから落ちて死んでいく人も見ました。私たちが経験したことは、もう他の誰にも起こってほしくない。

お父さんとお姉ちゃん、お兄ちゃんは5カ月前にシリアを離れました。早く会いたい。それから私、勉強がしたい。たくさん勉強して、大きくなったら家族みんながシリアに帰りたいんです。



6年目となる紛争で1000万人以上が国内外に避難しているシリア。日赤は、シリアで国内避難民の支援や食糧救済などに取り組むシリア赤新月社を支援するとともに、国外に逃れた難民を支援するため、レバノンやヨルダン、またギニアの難民キャンプには、医師・助産師らを派遣しています。  
※リンさん(左)とエネグスさん(右)の訴えは、海外たすけあい特設WEBサイトから視聴が可能です

## 災害で苦しむ人々への支援

### まず食料。せつけんを買えるように貯金もしたいんです

マラウイ共和国 エネグス・ベネフットさん (28歳)

洪水とそれに続く干ばつに襲われた私たちの村の生活はとても大変です。夫の収入は少なく、必要な物も買えません。1歳の子供もいますが、食べ物が入らず、飢餓状態に陥っていました。赤十字の「現金支給プログラム」のおかげで、ようやく空腹のまま眠らなくて済みそうです。いただいたお金で買いたいのはまず食料。せつけんなども買えるよう貯金もしたい。支援が続くのなら、お金を貯めてヤギを飼い、家計の支えにしていきたいと思っています。



アフリカ大陸南東部にあるマラウイ共和国は、大規模な洪水と干ばつという2年続けた異常気象による食糧危機に直面しています。こうした事態に、マラウイ赤十字社は人々に食料を買うための現金を支給するプログラムや、給食プログラムを実施中です。また、同様に食糧危機の発生しているブルンジ、モザンビークなどにも支援を行っています。

## 病気で苦しむ人々への支援

### 「子どもたちが予防接種を受けられるようになりました」

ケニア・エスコット村 マリアム・ファラさん (25歳)

赤十字の巡回診療のおかげで子どもが予防接種を受けられるようになりました。0歳から5歳の4人の子供を抱えています。以前はクリニックのある村まで長い距離を歩かなければならなかったんです。助かっています。

でも、巡回診療が来る診療所に普段いるのは看護師の一人だけ。私も産前産後の検診で診療所に通っていますが、難産のときは遠くの病院まで行かなくてはなりません。命の危険もあります。また薬剤が不足していることなど改善してほしい点も多いです。



保健医療サービスが行き届かず、妊産婦死亡率や乳児死亡率が高いケニア北東部。日赤はケニア赤十字社と協力し、巡回診療や保健ボランティアの育成、住民への健康教育などを通して地域の保健強化を目指すIHOP(ケニア地域保健強化事業)に取り組んでいます。

## ベトナム 災害対策事業 マングローブ植林で防災 地球環境保護にも一役

湿地帯に広がる緑豊かなマングローブ。地元では「緑の壁」と呼ばれ、台風や高波などの自然災害から人々の命を守っています。日本赤十字社は平成9(1997)年からベトナム赤十字社と連携し、マングローブなどの植林と保護活動を続けてきました。その面積は東京ドーム2226個分に相当する1万408ヘクタール。このマングローブの森が吸収する温室効果ガスは2025年までに少なくとも1630万トンと試算されています。地球温暖化防止にも貢献しています。

### 「安心して暮らせるようになりました」

マングローブは、淡水と海水が混じり合う「汽水域」に群生する植物の総称。その環境に恵まれたベトナムは多くのマングローブが自生していました。しかし、1960年代以降の戦争や伐採、エビ養殖池の拡大などから半減。その結果、台風や高潮発生時の被害が年々拡大し、住民生活や農作物にも深刻な影響が出ていました。

こうした事態を受けて始まったのが日赤とベトナム赤による「マングローブ植林を通じた災害対策事業」です。植林は地域住民を主体に取り組まれ、各地域で育成したボランティアによる森林保護、防災啓発など幅広い活動が展開されています。

事業地の一つハイフォン市の赤十字支部で

副会長を務めるホアン・ルオンさんは「ボランティアなどの人材を集めるのに苦労した面もありましたが、みんなが熱心に取り組んでくれた結果、気候変動やその被害の軽減につながってきていると思います」と20年に及ぶ活動の成果を振り返ります。

事業当初から植林活動に参加してきたタイビン省のブ・アイン・ピエンさんは「植林の結果、安心して暮らせるようになりました。(マングローブは魚介類の生息にも適しているので)養殖なども始める事ができました」と喜びます。

20年に及ぶ日赤の支援で根づいたマングローブ植林。当初は北部6省が対象でしたが、現在は10省に拡大。ベトナム赤では、行政と協働した今後の事業継続に向けて、行政との連携にも力を入れています。



20年かけて生い茂ったマングローブの様子



マングローブが高潮や洪水被害を防ぐ



子どもたちにとってマングローブは生活の一部となった



植林して間もない頃のマングローブ



補植の様子



防災教育の一環としてマングローブの保全について学ぶ子どもたち



生態系も豊かに。魚やエビの収穫によって生活にも潤いが子どもたち

## 世界につながる「たすけあい」 155カ国・地域を支援

「海外たすけあい」は昭和58(1983)年にスタートし、今年で34回目。昨年度までに寄せられた、たすけあい寄付金は総額238億円余りに達し、紛争、災害、保健・医療の3分野での支援を世界155カ国・地域に広げてきました。使途が指定されている海外救援金を除き、ほとんどの国際活動事業の財源が海外たすけあいの募金により、まかなわれています。

### 3つの特色 — 赤十字だからできること

- ①赤十字自らが取り組む支援事業に活用  
世界190カ国の赤十字ネットワークを生かし、支援地の赤十字社とともに、苦しんでいる人々に直接支援を届けています。
- ②地域に根ざし、継続的に支援  
地域に根ざしているからこそ、緊急時にはいち早く、かつ長期的視野に立った支援に取り組んでいます。こうした支援を通して、途上国の赤十字社は一層の自立と成長を果たしています。
- ③国際社会の支援が届きにくい地域にも支援  
紛争地の中には、「中立」を掲げる赤十字だけが活動を許されている地域も。メディアに注目されない中小規模の災害に対する支援も赤十字ならではの強みです。

## あなたの支援でこんなことが実現します。

500円 = 赤ちゃん用おむつ50枚	1,000円 = コート1枚
10,000円 = 食料5人家族2カ月分	30,000円 = ストープ6家族分

\*支援内容は国・地域によって異なります

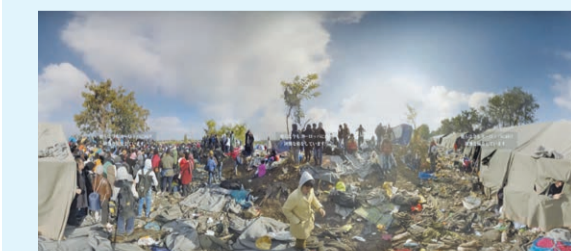
### 寄付をお寄せいただくには (ご協力方法)

郵便局・各金融機関 全国の郵便局、取り扱いのある銀行などの金融機関やATMで寄付可能。	窓口 日赤の各都道府県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK各放送局。
インターネット クレジットカードやPay-easyで寄付できます。	コンビニ端末 ファミリーマートにある情報端末「Famiポート」を使って簡単寄付。
携帯電話利用料と一緒に寄付 SoftBankのスマホ利用者の方は、上記のQRコードより携帯電話の利用料金の支払いと一緒に寄付できます。	その他 Yahoo!基金やAmazonのサイトからも寄付できます。

## あなたも世界の支援現場の目撃者に!

### バーチャル・リアリティーで体験しよう

動画の世界に入り込んで、さまざまな疑似体験ができる技術がバーチャル・リアリティー (VR)。今年の海外たすけあいでは、海外支援現場での人々の生活をVRで体感できる動画を用意。世界各地で困難に立ち向かう人々からのメッセージ動画も特設ウェブサイト (<http://www.jrc-kaigai.jp/>) からご覧いただけます。また、今回の募金 (計画額8億5000万円) を財源とした事業計画および昨年度の事業報告も掲載しています。



VRでは、セルビア国境の難民キャンプの様子と、マラウイの食料支援現場を体感できます

VR動画 配信中 | 海外たすけあい特設WEBサイト | 日赤 海外たすけあい 検索



### 新型インフルエンザに備え訓練 関係機関との連携確認

茨城県

古河赤十字病院は10月31日、新型インフルエンザ患者の県内発生に備えた対応訓練を実施。古河市役所や消防、保健所の各職員と同院職員の計約30人が参加し、連絡・搬送・受け入れなどの連携を確認しました。



医療チームは防護具を着用し、感染症病室への搬送訓練に臨みました

感染症指定医療機関となっている同院は、危険性の高い感染症が発生した場合、患者の受け入れ、治療を行うこととなっています。訓練は、海外から帰国した女性に新型インフルエンザの疑いがあるとの想定で行われたもの。訓練終了後の意見交換会では「マニュアルを見直し、確認することができた」「実践的な訓練ができた」などの意見があがりました。

### 地域に防災意識広げる「推進員」 65人が誕生

茨城県

茨城県支部は10月17日、地域奉仕団員を対象に「赤十字防災啓発プログラム推進員養成研修」を実施しました。災害に関する正しい知識や役立つ技術などを地域に普及していく「推進員」を養成するのが目的です。



誕生した65人の推進員の皆さん。地域での活躍が期待されています

研修では、プログラムの企画・運営方法の学習、人前で話す練習、実技(毛布を使ったガウンの作り方)など今後の活動に必要な知識や技術を学び、65人の推進員が誕生しました。赤十字奉仕団茨城県支部委員会の有田陽子委員長は「日赤の担う役割、自助・共助が果たす役割を改めて確認できました。地域全体に防災啓発を浸透させていきたい」と決意を語っています。

### 久留米赤十字会館 温水プール利用者が100万人突破!

福岡県

オープン15年目を迎えた久留米赤十字会館の温水プール・フィットネスの利用者が100万人を突破。10月28日に記念セレモニーが開催されました。100万人目の利用者となったのは水泳教室に通う井上哲男さん。「退職後、一番大切なのは健康だと思い、通い始めました。回を重ねるごとに水泳の楽しさを実感しています。今後も継続していきます」と喜びの声をいただきました。



100万人目となった井上さん(前列中央)と利用者、職員

平成14年8月に開館した久留米赤十字会館は、温水プールなどの健康増進事業のほかに、介護保険制度に基づく居宅介護支援事業などを行っています。救援物資も備蓄しており、今年4月の熊本地震の際に役立てられました。

### INFORMATION

### 国際人道法写真展「戦場を希望の大地へ」 横浜で開催

神奈川県

多くの一般市民が地雷や不発弾などで犠牲になっている紛争地。これらの地域の「今」を伝えるとともに、被害を受けながらも社会復帰に向けて力強く生きる人々の姿をとらえた写真展「戦場を希望の大地へ」が12月下旬、横浜市内で開催されます。



◆日時 2016年12月20日(火)~26日(月) 11:00~19:00 ※20日は13時開場、26日は17時開場  
◆会場 みなとみらいギャラリー クイーンズスクエア横浜 クイーンモール2階 (横浜西区みなとみらい2-3-5)

写真展は、国際人道法の意義を広め、赤十字への理解と賛同を得る場として神奈川県支部が赤十字国際委員会(ICRC)などととも毎年開催しているもの。今年は、ICRCが世界5カ国の紛争地に派遣した5人の写真家による40点が展示されます。

### 埼玉マジック赤十字奉仕団 最後の発表会に180人

埼玉県

40年以上にわたり、手品を通じて笑顔を地域に広げてきた埼玉マジック赤十字奉仕団が10月29日、「最後の発表会」をさいたま市内で開催。12人の団員が得意の手品を披露し、180人の観客から大きな拍手と歓声が寄せられました。



奉仕団活動としての地域訪問は今後も続きます

同奉仕団の結成は昭和50年。子ども会や高齢者施設などを訪問し、手品を届けるとともに、平成19年からは年1回の発表会を開いてきました。しかし、団員の減少や高齢化が進んだ事から、発表会は今回が最後に。会長の田中重男さんは「よく続けられたと思います。10回という一つの区切りで発表会を終えることができ、ほっとしている」と話しています。

### フェスタに来場者1000人 病院の仕事体験、献血体験が大人気

山口県

山口県支部は10月23日、県内2病院、血液センターとの合同イベントとして「もっと知って!やまぐち赤十字フェスタ2016」を初開催。約1000人が来場し、病院のお仕事体験などに挑戦しました。



針は刺さないけど、本物そっくり。みんな緊張気味だった献血模擬体験

病院・血液センターのコーナーでは、子ども向けのお仕事体験や、献血模擬体験が大人気。子どもたちは医師の手ほどきを受けながら、聴診器を使った診察や内視鏡による外科手術などを体験しました。イベントには奉仕団も協力。山口市赤十字奉仕団は炊き出した非常食を来場者に振る舞い、好評を博しました。防災奉仕団は心肺蘇生体験コーナーで救急法の指導などを行いました。

### 首都直下地震に備え合同救護訓練 新宿歌舞伎町に救護班が初出動

東京都



ビルが立ち並ぶ繁華街の一角に救護所を展開

東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の首都直下地震により建物の倒壊や火災が発生。多数の負傷者も出ているとの想定の下、日本赤十字社本社と第2ブロック支部(東京都支部を含む関東甲越各都県支部)による合同災害救護訓練が11月3、4日の2日間、新宿区歌舞伎町で行われました。

今回の訓練は、ビルや人、車が密集する中で発生する都市災害時の救護活動に備えるのが目的。東京都支部がある新宿区は、中小のビルが集まる地域を多数抱えており、甚大な被害が予想されることから、訓練場所を歌舞伎町に初めて設定しました。

### 新たな取り組みに課題も発見

訓練では日赤災害医療コーディネーターの調整の下、救護活動をスムーズに展開できるよう、日赤本社や東京都支部、被災ブロック代表支部(今回は群馬県支部)の各災害対策本部が、支援や被災状況に関する情報をタイムリーに収集・集約することに重点が置かれました。

また、DMAT(災害派遣医療チーム)をはじめとする日赤以外の救援チームとの円滑な協働も訓練のポイントに。EMIS(広域災害救急医療情報システム)を使って、日赤救護班の活動情報を外部からも「見える」ようにしたほか、東日本大震災などで各団体の様式が統一されていなかったカルテについては、新たに作られた「災害時標準診療録(通称J-SPEED)」を使用するなどの試みにも挑戦しました。訓練の結果、新たなシステムを有効に活用するには、訓練を通じて繰り返し習熟を図る必要性が課題として浮き彫りになりました。



# AREANEWS

## 看護師への夢 ろうそくの灯へ決意も新たに 赤十字看護専門学校における戴帽式

富山県 / 北海道 / 愛媛県



最後の戴帽式が行われた松山赤十字看護専門学校では、ナイチンゲール像のともしびから看護の心を受け継ぎました

戴帽式や宣誓式は、看護を学ぶ学生が看護師になる自覚と責任を誓う大切な場。全国16カ所にある日本赤十字社の各看護専門学校で、この秋を中心に行われました。

富山赤十字看護専門学校では、47人の1年生が副学校長からナースキャップを戴きました。戴帽後は、ろうそくに火をともし、ナイチンゲール誓詞を朗唱。命を預かる責任を心に刻みました。

北海道の伊達と浦河の2つの赤十字看護専門学校では、各校の1年生がナースキャップを戴帽され、半年間の生活を振り返るとともに、看護師への夢を新たにしました。

平成31年3月に閉校予定の松山赤十字看護専門学校では最後の戴帽式に31人の1年生が臨みました。横田英介学校長から「どんな看護師になりたいか、あらためて自身で問い直して欲しい」と激励された学生からは、「赤十字精神を胸に、みんなの心の支えになる看護師に」「最後の入学生として誇りを持ち頑張りたい」との決意が語られました。



厳かな雰囲気の中、行われたキャンドルサービス (富山赤十字看護専門学校)



身も心も引き締まるナースキャップの戴帽 (浦河赤十字看護専門学校)

### 常任理事会開催報告

平成28年11月18日、本社において平成28年度第7回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

記

1 予算の補正について  
(日本赤十字社鹿児島県支部特別養護老人ホーム錦江園の改修工事にかかる社会福祉施設特別会計歳入歳出予算の補正及び同工事に伴う錦江園への貸付にかかる鹿児島県支部の一般会計歳入歳出予算の補正)  
2 理事会に付議する事項について

(高知赤十字病院の移転新築工事にかかる資金の借入)  
審議の結果、予算の補正については原案のとおり議決され、理事会に付議する事項については、原案のとおり同日開催の理事会に付議することが了承されました。  
また、北海道における医療施設に関する件、平成28年度上半期事業報告及び10月分の社長委任事項の決定状況等について、それぞれ報告しました。

### 理事会開催報告

平成28年11月18日、本社において平成28年度第2回の理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

記

1 規則の改正について  
(社員制度の見直しに伴う関連規則の改正等)  
2 資金の借入について  
(高知赤十字病院の移転新築工事にかかる資金の借入)  
審議の結果、規則の改正等及び資金の借入については原案のとおり議決されました。  
また、平成28年度上半期事業報告、南スーダンでの紛争犠牲者救援活動、平成28年度NHK海外たすけあい及び社長委任事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

### INFORMATION

#### 雪上安全法の受講者募集

#### 目指そう冬のスポーツの安全キーパー

スキー場での事故防止やけが人の救助、応急手当の知識と技術などを学ぶ雪上安全法講習の受講者を募集中です。冬のスポーツをより安全に楽しむために、皆さんの参加をお待ちしています。



#### 日程と会場 ◆東日本会場 万座温泉スキー場(群馬県)

2017年2月5日 雪上安全法救助員Ⅰ養成講習  
2017年2月6～8日 雪上安全法救助員Ⅱ養成講習

#### ◆西日本会場 だいせんホワイトリゾート(鳥取県)

2017年2月18日 雪上安全法救助員Ⅰ養成講習  
2017年2月19～21日 雪上安全法救助員Ⅱ養成講習

※他に北海道支部主催の講習もあります

#### 受講資格(以下をすべて満たす方)

- ①救助員Ⅰの受講には、救急法救急員資格が必要
- ②救助員Ⅰの有資格者は、救助員Ⅱ養成講習を2日目から受講可能
- ③満18歳以上であること(講習受講日時点)
- ④全日本スキー連盟のバッジテスト2級相当の技術があること

募集定員 各会場30人(先着順。定員に達し次第、募集を締め切ります)

申込方法 詳細は、日本赤十字社ホームページをご覧ください。  
[http://www.jrc.or.jp/activity/study/news/161121\\_004550.html](http://www.jrc.or.jp/activity/study/news/161121_004550.html)



## プレゼント

2017年版赤十字カレンダーと手帳(各1つ)をセットにして10名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS12月号を手にした場所(例/献血ルーム)
- ⑥12月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつかでも)  
A 今月の出会い B 青少年赤十字国際交流事業 C 三笠宮崇仁親王殿下ご逝去  
D 赤十字ボランティア情報誌「RCV」第64号を配信 E 健康豆知識 不眠症  
F 赤十字シンポジウム2016 G 10.21鳥取中部地震活動報告  
H 平成28年熊本地震災害義援金情報 I 特集 海外たすけあい J エリアニュース  
K 雪上安全法の受講者募集 L 常任理事会・理事会開催報告 M プレゼント  
N ハイチ・ハリケーン被害 O 人道支援の現場から
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしています。

応募先 ● 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社 広報室  
赤十字NEWS12月号プレゼント係  
FAX/03-6679-0785  
メール/koho@jrc.or.jp  
(件名「赤十字NEWS12月号プレゼント係」)

ウェブ上からもアンケートにお答えいただけます  
[http://questant.jp/q/news\\_201612](http://questant.jp/q/news_201612)



応募締切 ● 12月26日(月)必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。



WORLD NEWS



# ハイチ・ハリケーン被害 廃虚の中、 懸念されるコレラ感染の拡大

今年10月、大型ハリケーン「マシュー」の直撃を受けたハイチ共和国では、210万人が被災。現在も17万人以上が避難所で暮らしており、人道支援を必要とする住民も140万人以上に上ります。国際赤十字は食料や水、衛生キットなどの物資配布を進めるとともに、医療アクセスが困難な地域での巡回診療を実施。日本赤十字社も2010年のハイチ地震から継続してきた衛生支援活動の要員をハリケーン被災地へ派遣するなど、柔軟な対応を行っています。

「電線が切れ、電柱が倒れており、人々が『何かくれ』と言いながら両手を広げて車に向かってきます。木々は根こそぎ倒れていて、恐怖さえ感じる光景でした」。首都ポルトープランスから車で4時間。被災地の一つ、レカイの様子を小笠原佑子看護師(日赤和歌山医療センター)はこう振り返ります。

ハリケーン「マシュー」は過去10年間で最大級。猛烈な暴風雨により、屋根がなくなり壁だけになった家や土台しか残されていない家もあります。

「倒されたバナナやマンゴーの木々は人々の食料源。家畜も流されてしまいました。この景色を見た瞬間、今後何年もの間、この地域は食料の確保が困難になるに違いないと思いました」

レカイから車で4時間。被害がさらに大きかったジェレミーでは、高潮と暴風があらゆるものを破壊しつくしていました。辺り一面はがれきと泥、廃虚のような光景です。東日本大震災で救護班の一員として被災地に入った経験を持つ小笠原さんは、その時の光景と臭いがよみがえってきたといいます。

## 医療施設も被害

地震に見舞われた2010年の秋頃から、ハイチではコレラ感染が全土に拡大。

70万人以上が感染し8500人余りが命を落としました。今回のハリケーン被害によって、再びコレラ被害が広がる恐れが出ています。

新たなコレラ感染者(疑い含む)は11月11日時点で5800人以上。その数は週ごとに拡大傾向にあり、破傷風やマラリアも多く報告されています。ハリケーンによりハイチ全土で36の医療施設が被災し、34のコレラ治療センターが倒壊したのも痛手です。小笠原さんの訪れたジェレミーのヘルスセンターも2階部分が吹き飛んでなくなっていました。

「今すぐにコレラ予防の手洗いなどを啓発したいが、被災者は生きること必死。せっけんよりも、食べ物や雨風をしのげる場所の確保という状況です。また、避難生活の長期化により、高血圧や不整脈といった症状が被災者に広がることも懸念されます」

## 注目浴びる日赤の衛生支援事業

ハイチ地震後、要員を現地へ送り支援を続けてきた日本赤十字社は、2014年からは中央島のサバナットとコロンビエの2地域で、コレラ予防の手洗いや下痢の対処法といった衛生教育を進めてきました。この取り組みに今、大きな注目が集まっています。地元の人によると、



最も被害の大きかったジェレミーの街の様子



©Colin.Chaperon / IFRC



ルートと活動の確認をする小笠原看護師



レカイで衛生用品を配る赤十字ボランティア

この2地域ではコレラ患者が事業開始前に比べて75%も減少したことに加え、ハリケーン後もコレラ感染者を一人も出していないからです。

去年7月より、このコレラ事業を担当してきた小笠原さんは「平時から自分の健康を維持し、感染症を予防する知識

を身につけておくことが大切だとあらためて感じました」と指摘しています。

日赤ではハイチ赤十字社の救援活動を支援していくため、引き続き12月31日まで救援金を受け付け中です。皆さまの温かいご支援をお願いします。



「グローバル・ハンドウォッシング・デー(10月15日)」にせっけんを使った手洗いの大切さを広げるため、事業地の小学生と交流する吉田さん(左)

吉田 拓  
Taku Yoshida

フィリピン中部台風復興支援事業(事業管理)  
本社(嘱託)

## 信頼と仕事の両輪

フィリピンのセブ島に単身赴任し、2013年の台風「ハイエン」の被災地復興に向けてフィリピン赤十字社と仕事をしています。住宅・保健・衛生・防災・生計支援の5つの分野の調整役という、格好いいのですが、平均年齢20代前半のフィリピン赤十字社の皆さんからは、「仕事について口やかましく物を言うイヤな中年の日本人男性要員」と見られる一面もあるのでは…と思っています。

若い彼らが話を聞いてくれるようにコミュニケーションを取るのも仕事とはいえ、孤独な思いをすることも少なくありません。最初はお互いに試行錯誤の連続でした。それでも時がたつにつれ、「意見が食い違っても受益者のために仕事をしたい」という思いが同じであることを分かってくれるようになりました。お互いを尊重してこそ良い仕事ができる、という信頼感と一体感

が生まれてきています。

今年の4月、私の誕生日のことです。夜中の1時に目が覚め、どうにも眠りにつくことができなかった。朝まで本を読み、そのまま仕事に行きました。昼休み、事務所で急に眠気に襲われて、ふとうた寝をして目覚めたら、誰もいなくなっていました。あれっと思っていたら、扉がいきなり開き、現地職員が全員で「ハッピーバースデートゥーユー」を歌って入って来てくれたのです。鼻の奥が熱くなり、みんなの顔がぼやけました。ありがとう、君たちのおかげで、日本赤十字社はセブで仕事ができるんです。でも町中で、遠くから僕のことをオールド・マンと呼ぶのはやめてほしいな。

プロジェクト終了まで、あと少し。フィリピン赤十字社の仲間たちと台風被災者の復興に向けて最後の仕上げをしていきます。

## 人道支援の現場から

5